

## ◆次期役員等を選出

## ◆東北地方太平洋沖地震の災害支援に関する声明を発表

## ◆平成22年度補正予算、平成23年度基本的活動方針・予算等を可決

◇総務部◇

第135回北海道医師会定時代議員会を去る3月21日（月・祝）、当医師会館8階会議室において開催した。

冒頭、仮議長の吉本勲代議員の進行により、議事録署名人（札幌市・門野豊代議員、小樽市・近藤真章代議員）の指名の後、議長に塩野恒夫代議員を選出し、新議長の進行により副議長に本間哲代議員を選出した。

長瀬会長は挨拶で「3月11日午後、東北地方太平洋沖で発生したM9.0と観測史上最大規模の地震と津波の被害のすさまじさは目を覆いたくなるようなものであった。命を奪われた多くの犠牲者の方々に衷心より哀悼の意を表し、災害に遭われた多くの方々に心からお見舞いを申し上げる。一日も早く旧に復するよう願っている。

地震発生翌日の12日は、当代議員会の予定であったが、北海道でも函館や釧路など太平洋沿岸各地で被害を被っており、医師会員は住民の生命を守る役割を担う者であることから、代議員会の延期を決めた。出席の準備をされていた先生方には大変ご迷惑をおかけした。そしてすでに本日の予定をたてていた先生方に、予定を変更しお集まりいただき、心からお詫びを申し上げます。後ほど震災に対して当代議員会の名において声明を発したいと考えている。また、同時にこの場で義援金を募り、代議員会の名で寄附したいと思う。

改めて、本日、第135回北海道医師会定時代議員会を開催するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。代議員の先生方にはこのような状況の中でご参集をいただき感謝申し上げます。また、本日は道議会閉会后、休む間もなく突然の災害対策に追われている北海道副知事の多田健一郎氏にお越しいただいた。日頃さまざまな医療問題につき適切・迅速に対処いただいており、誠に感謝している。後ほどご挨拶を頂戴することになっているのでよろしくお願い申し上げます。

われわれ執行部は今月末をもって2年間の任期を終えることとなる。お集まりの代議員ならびに会員

の皆様には、この間絶大なご支援ご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

本日の代議員会では、次期の新たな役員および道医裁定委員、日医代議員、予備代議員の選出をいただき、ついで、庶務・事業報告と会計報告の後、平成23年度の活動方針ならびに一般および各特別会計収支予算、そして、いま多くの問題を抱えている医政問題についてご審議・ご議論いただきたい。十分にご審議のほど、よろしくお願ひしたい。

われわれを取り巻く政治的、経済的状況は極めて混沌としている。

変革することを掲げて勝ち取ったアメリカと日本の新政権は、共に任期半ばにして議会のねじれ現象で政治運営に行き詰まりを呈している。鳩山内閣は政治と金、そして沖縄の米軍基地問題でつぶれ、後を継いだ菅内閣は、党内の権力争いに終始し、思いつき発言が目立ち、国をどこへ導くのか方角も見えてこない。

政府の医療政策も経済的側面ばかりに目を向け、医療を経済活性化の手段と位置づけて、憲法に掲げられた国民の基本的権利をないがしろにする施策を推し進めている。医療ツーリズムの推進、混合診療全面解禁、株式会社の医療への参入、そしていま世間を騒がせている環太平洋経済連携協定（TPP）への参入もその表れである。TPPへの参加については、多くの会員から疑問の声が上がっており、北海道医師会としても反対を主張している。先日、札幌でTPPを考える道民シンポジウムが開催され、要請を受け出席・発言をしてきた。TPPへの参加は、世界に誇るわが国の国民皆保険制度が崩壊する危険性をはらみ、富裕層を除く多くの国民に経済・医療格差社会を招くもので絶対反対であり、ともに手を携えて阻止しようと呼びかけ、絶大な支持を受けた。

日本医師会は昨年4月、代議員会において民主党を強く支持する原中勝任候補を会長に選出した。しかし、迷走する政権与党に対し、医療政策の提言・実行が思うように進まず苦慮している。社会保障関



係議員の掘り起こしとその行動が必要である。

日医の発言力を増すためには、勤務医と開業医、病院と診療所の別なく一致団結して事に当たらなければならない。原中会長は医師全員が日本医師会に入会することが大切であるとし、未入会の若手医師に呼びかけている。

間近に迫った新公益法人制度下での医師会活動は、これまでと変わるのか、その在り方について取り組まなければならない。医師会が変わったと国民に見せる絶好の機会である。

北海道の経済状況は極めて悪く、なかなか光が見えてこない。今回の地震・津波によるダメージがどう影響するかが懸念される。高齢化率の高い北海道は、高齢者にとって大変厳しい状況にある。特に、有病率が高くなる高齢者の医療費負担の増大は医療を受ける機会を低下させる。受診機会を失うことのないように窓口負担は極力抑えるべきである。日本医師会も多くの提言を受け、努力している。

北海道では相変わらず医師不足が著明であり、最も重要な救急医療については、地域の医師会の先生方の協力によりなんとか凌いでいるのが現状である。そのような中、道内各地で市民フォーラムを積極的に開催し、地域住民を巻き込んでの啓発活動に感謝している。当会としても極力現地に出かけ協力していきたいと思っており、そのような場合は、同時に地域の先生方との接触から現地の実情を肌で感ずる重要な機会と考えている。

昨年、試験的運行であったが、ドクタージェットが初めて救急活動に活用され効果が実証された。ドクタージェットの常備化については、今後の検討に期待したいと思う。また、3機体制になったドクターヘリは順調に実績を上げており、今度の災害でも早速役割を果たした。

この後、役員選挙により新しい執行部が決まるが、新執行部では道内の厳しい医療状況への対策、間近に迫った新公益法人選択決定、診療報酬と介護報酬同時改定への対応に加えて、非常に多くの事業を滞りなく遂行しなければならない。また、年々厳しくなる会計の健全運営も大きな課題である。これら事業の詳細は、後ほど事業計画において示すのでよ

しくご討議をお願い申し上げ、開会に当たってのご挨拶としたい」と述べ、続く来賓挨拶では、多田健一郎副知事が高橋知事の祝辞を代読した。

庶務・事業報告ならびに会計報告の後、議案審議に入り、議案第3号から議案第10号に関する役員等の選挙を行った（選挙結果は別掲のとおり）。

その後、一般会計・収益事業特別会計の平成22年度補正予算を可決した後、社保対処費検討委員会報告が松家委員長より行われ、報告のとおり承認された。

次に、平成23年度基本的活動方針、平成23年度一般会計および4特別会計予算を提案説明後、予算委員会に審議を付託し、午前の部が終了した。

午後1時30分、午後の部が再開され、竹内文英代議員より、岩見沢で発生した集団食中毒に関する経過報告がなされた後、庶務・事業報告、会計報告について承認された。

議案第19号：当面の医療政策に関する件では、まず目黒常任理事より、平成23年3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」の被災状況等に関する説明を行い、さらに救援や復興支援につき本代議員会の名において声明を作成したいとの提案を行った。

その後、「総論」(直江常任理事)、「地域医療再生計画」(宮本副会長)、「介護保険の問題点」(前川常任理事)、「北海道の航空医療体制」(目黒常任理事)について詳細に説明した後、最後に直江常任理事より本代議員会の名において決議文を作成したい旨の提案が行われた。

続いて、代表質問ならびに一般質問を受け、理事者からそれぞれ答弁が行われた。

#### ◇代表質問◇

1. 丸山 裕代議員 (道南ブロック)：「地域医療再生とくに在宅医療の援助について」(答弁：藤原常任理事)
2. 鈴木伸和代議員 (中央ブロック)：「地域医療支援病院について」(答弁：三宅副会長)
3. 北慎一郎代議員 (後志ブロック)：「消費税損税解消に向けて」(答弁：水谷常任理事)



◇一般質問◇

1. 井上善之代議員（札幌市医師会）：「患者窓口負担の軽減について」（答弁：藤原常任理事）
2. 宮崎誠一代議員（札幌市医師会）：「TPPについて」（答弁：直江常任理事）
3. 恩村宏樹代議員（函館市医師会）：「特定健康診査の受診率低迷について」（答弁：三戸常任理事）
4. 笹本洋一代議員（札幌市医師会）：「社会保障の共通番号制について」（答弁：水谷常任理事）
5. 岡部實裕代議員（札幌市医師会）：「新医師臨床研修制度について」（答弁：渡邊常任理事）

質問終了後、声明ならびに決議につき起草委員会に審議を付託し、その後、三戸常任理事より「子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業」に関し説明がなされ、起草委員会終了まで暫時休憩となった。

午後3時49分に再開され、予算委員会の梶良行委員長より報告が行われ、平成23年度予算関連議案について可決決定した。

その後、起草委員会の角哲雄委員長より報告が行われ、声明ならびに決議案（別掲）が提案され、異議なく採択された（この声明文ならびに決議文は後日、日本・都府県・郡市医師会、政府閣僚、政党、国会・道議会議員、知事、道内自治体首長、「日本の医療を守る道民協議会」構成団体およびマスコミほか関係各方面に送付し、各項目の実現に向けて要請した）。

次に、榊山・藤原常任理事、野呂・鈴木各理事よりそれぞれ退任の挨拶が行われ、続いて新役員を代表して三期目の会長に選出された長瀬清氏より新任挨拶があり、引き続き閉会の挨拶が行われ、本代議員会の全日程を終了した。



◇

引き続き、平成23年北海道医師会定時総会を開催。長瀬会長が議長となり進行、代議員会で可決された事項が本総会においてもすべて承認された。

なお、会長挨拶の際に発起され、本代議員会議場に設置された義援金箱には、309,596円の募金が集まり、3月25日（金）長瀬会長が上京の折に日医・原

中勝征会長に目録を手渡し後日送金した。



〈質疑応答を含めた議決事項については後日、当会ホームページに掲載予定〉



## 北海道医師会役員・裁定委員ならびに 日本医師会代議員・同予備代議員選挙結果

（任期 平成23年4月1日～平成25年3月31日）

平成23年3月21日（月・祝）

北海道医師会

会 長  
長瀬 清(再)

副 会 長  
三宅 直樹(再) 畑 俊一(再)  
宮本 慎一(再)

常 任 理 事  
前川 勲(再) 直江寿一郎(再)  
渡邊 直樹(再) 目黒 順一(再)  
小山 司(再) 三戸 和昭(再)  
深澤 雅則(再) 伊藤 利道(新)  
北野 明宣(再) 橋本 洋一(再)  
水谷 匡宏(再) 山科 賢児(再)  
岡部 實裕(新) 藤井 美穂(再)

理 事（ブロック順）  
中央 山光 進(再) 中央 島田 道朗(新)  
道南 伊藤 丈雄(再) 後志 津田 哲哉(再)  
日胆 沖 一郎(再) 空知 倉増 秀昭(新)  
道北 山下 裕久(新) 北見 古屋 聖兒(再)  
道東 堀 修司(再) 道東 杉元 紘一(再)  
医育 飯塚 一(再)

監 事  
水元 修治(再) 中村 興治(再)  
大口 正樹(再)

## 裁定委員

高田 義人(再)	川上 哲平(再)
浜向 賢司(再)	小玉 道郎(再)
足永 武(再)	遠山 晴義(再)
西村 進(再)	高須 重家(再)
今 哲二(新)	岸本總一郎(再)
池永 和親(再)	

## 日本医師会予備代議員

沼崎 彰(新)	篠島 弘(新)
小野寺栄司(再)	永井 文作(再)
島田 道朗(新)	杉元 紘一(新)
樋口 晶文(再)	稲川 昭(新)
深澤 雅則(再)	大北 健雄(再)
三戸 和昭(新)	今 真人(新)
直江寿一郎(再)	

## 日本医師会代議員

倉増 秀昭(新)	堀 修司(新)
沖 一郎(再)	山下 裕久(新)
古屋 聖兒(再)	津田 哲哉(再)
伊藤 丈雄(再)	畑 俊一(再)
中田 康信(再)	山光 進(再)
宮本 慎一(再)	三宅 直樹(再)
松家 治道(再)	

代議員会議長 塩野 恒夫(再)

代議員会副議長 本間 哲(再)

※ 本表における副会長、常任理事、監事、裁定委員、日本医師会代議員および同予備代議員の記載順序は、本会定款施行規則第16条第2項「前項の候補者名簿の記載順序は、会長がくじで決める」に基づくものです。

## 平成23年東北地方太平洋沖地震の災害支援に関する声明

平成23年3月11日に発生したこのたびの地震では、直接の被害のみならず、巨大津波の発生、さらには、原子力発電所からの放射性物質の外部放出という深刻な事態となっています。被災地では多数の死者・行方不明者が出ており、未だに被害の全体像が正確に把握できない状況であります。

亡くなられた皆様には謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災され困難な生活を強いられている皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

被災地では、生活物資や医薬品などが不足し、避難生活や医療体制が維持できない窮状に陥っており、一刻も早い救援が求められています。

我々は、被災者の方々が心と身体の健康を取り戻し、一日も早く復興できるよう、日本医師会ならびに関係諸団体と連携し、最大限の支援を行っていく所存であることを表明します。

平成23年3月21日

第135回北海道医師会定時代議員会

## 決 議

政府は昨年6月に「新成長戦略」を閣議決定し、医療・介護・健康産業を日本経済の成長牽引産業と位置づけ、医療ツーリズム推進、医療滞在ビザの発行を認めた。さらに環太平洋経済連携協定(TPP)への参加を目論み“平成の開国”を宣言し、また「総合特区法案」「規制・制度改革に関する分科会中間取りまとめ(案)」を発表した。これらは、医療の営利産業化、市場開放、外国資本の導入を企図したものであり、国民皆保険制度の崩壊につながるものとして断じて容認できない。

我々は、国民の健康と生活の安定が脅かされることがないよう、以下の事項を要求する。

記

- 一、国民の共有財産である国民皆保険制度の堅持
- 一、経済格差にかかわらず医療を受けられるための患者負担の軽減
- 一、医療への市場原理主義の導入に反対

平成23年3月21日

第135回北海道医師会定時代議員会